

資料提供にご協力ください

新しい「130年史」を目指して

専修大学130年史編集主幹 青木美智男

日本近現代史の中で専修大学の役割探る

専修大学の事務組織の中に、「大学史資料課」という課があることをご存じでしょうか。

本学では、昭和56年(1981)に『専修大学百年史』(上下巻)を刊行後、5年ごとに大学の歩みを紹介する年史を刊行してきました。これを制作・編集しているのが、大学史資料課です。平成21年(2009)に創立130年を迎えるにあたり、現在、「130年史」を刊行するための準備作業が着々と進められています。

本学は、明治13年(1880)に産声をあげました。実は、日本の私立大学の中でも、たいへん古い歴史を持つ大学の一つなのです。本紙444号で特集しているように、アメリカで学び、理想に燃えて帰国した4人の青年たちが、欧米で発達した近代における法律学や経済学を、日本語で教えるために設立した日本初の専門学校がその始まりです。

創立130年という節目の年を迎え、創立以来の歴史に立ち戻り、本学の理念である「社会知性の開発」をベースにした新たな大学の姿を創造していくことは大切なことだと考え、既刊の年史とはまた違った視点で、「130年史」を刊行したいと鋭意努力中です。そこで校友をはじめ、多くの皆様のご協力をいただきたいのです。

校友の活躍を描ける新資料の提供を

大学の研究・教育力を評価する際の基準の一つに、その大学の卒業生が社会でどれほど活躍しているのかという見方があります。立派な教員の講義を受け、素晴らしい施設で学んだ学生諸君が、卒業後、社会で認められていくことによって、大学の評価も高まっていきます。

本学が現在あるのは、卒業生の皆さんが4年間で身につけた知的パワーと質実な気風を社会で発揮・還元してきて、それが認知されてきたからです。

そこで、「130年史」は24万5000人に及ぶ卒業生の皆さんが大学で何を学び、社会に出てから、どんな活動をされてきたか、そんな視点を重視した内容にしたいと考えています。そのためにも専修大学の歩みを描ける新資料の収集が必要となるのです。

専大の歴史 教養科目に登場

08年度から、教養科目内の総合科目に「日本の大学史のなかの専修大学」という講座(担当・大谷正法学部教授)を開講し、本学が日本近現代の歴史の中で、どのような役割を担ってきたのかということ、日高義博学長をはじめ、教員、卒業生が講義します。これは在學生に「専修大学」を深く認識させ、愛着を確かなものにしてもらうことを目的としたものです。このような講座はすでいくつかの大学で行われ、成果を上げていますが、この講座に欠かせないのがテキストです。「130年史」は、これまでの大型で写真を中心とし



▲明治42年の卒業証書



▲昭和31年度卒業記念アルバム。表紙は黒漆塗りで開くと校歌が流れる

たスタイルではなく、新たに親しみやすい一般向きの読み物にします。まず学生諸君が読んで理解できるような内容に編集するため、資料や図版も一新したいと考えています。

日本近現代史研究のテーマに「大学史」

現在、各大学の大学史編さん方針は、これまでのように自校の存在意義を確認するためや、大学のPRとして使用するものから変わりつつあります。大学史は日本近現代史の重要な研究テーマになっており、多くの研究者の関心事の一つになってきているのです。また、多くの大学では自らが所蔵する資料を公開するという方向に変わりつつあります。

専修大学は130年という長い歴史を誇ることから、早くも注目の的になり出しています。他大学の研究者の目を通して、本学を客観的に再評価していただくことは、たいへん重要なことです。

現在、当課の書庫にはこれまで収集してきた多くの資料が保管されていますが、さまざまな研究者の要請に応えるためにも、今後も多方面からの資料収集に力を入れたいと思っています。大学時代のものでしたらどのような資料でも結構ですから、ご一報ください。

【連絡先】大学資料課 電話03-3265-5897

「松原成美ゼミOB会」フィナーレにあたって

松原会会長 宮川雅夫(昭53商)

「絆」を大切に 今後も交流を

9月29日、松原会(松原ゼミOB会)は、神田キャンパス15階ホールで最後の総会を開催した。

松原成美名誉教授は、3月に定年退職された後、現在も後進の指導にあたられているが、これを機に長年にわたって続けてきたOB会もひと区切りつけることとなった。松原ゼミナールは、昭和43年に松原教授が本学に着任した翌年に開設され、以来、3月に



▲花束を手に笑顔の松原名誉教授

第37期生が卒業するまでに、商学部学生412人を輩出している。また、大学院で指導を受けた商学研究科の松原研究室出身者37人も、松原会に参加している。先生のお人柄とその指導方針により、ゼミ生の「きずな絆」を何よりも大切にするという伝統が受け継がれ、OB会も「松原ファミリー」の名のもとに有意義な交流の場となっていた。

松原会は、運営資金の残金から「専修大学創立130年記念事業資金」へ寄付することを決めた。また、今後もメーリングリストなどを通じて連絡網を維持していくことを申し合わせた。

法・神長ゼミを東京・足立支部「校友の集い」に招待

校友会活動に理解深める

11月22日に開かれた校友会足立支部(小宮多喜次支部長=昭40法)の「校友の集い」に、神長百合子法学部教授と同区在住の内山翔太さんらゼミ生6人が招待され、卒業生と親交を深めた。

学生のうちから校友会活動への理解を深めてもらおうというもので、支部活動としては初の試み。

当日は本部役員、来賓を含め54人が出席。ゼミ生たちは、社会で活躍する卒業生と触れ合うことで、キャリアプランニングの一助とし、卒業後の人的ネットワークの大切さを体感した。



▲自己紹介する神長教授(右)とゼミ生たち

「箱根駅伝」での健闘願い 校友会支部「37会」が激励金

箱根駅伝での健闘を願い、校友会支部の37会(昭和37年卒業同期会)から陸上競技部に激励金が贈られた。11月16日、神田キャンパスで同会の尾崎光永会長(法)から目録と20万円を手渡された加藤覚監督は、「箱根」での健闘を誓った=写真。



高大連携

県立麻生高校1年生が1日体験入学

高大連携協定校である神奈川県立麻生高校1年生235人が11月1日、生田キャンパスを訪れた(写真<上><下>)。

寺尾格高大連携連絡協議会委員(経済学部教授)による模擬授業「学んで何だろうか? ~高校と大学の違い~」や、図書館・情報科学研究所などの施設見学が行われ、高校生たちは「大学生気分」を味わった。



模擬裁判を体験 専大附属高と松戸高

11月17日、専修大学附属高校(鈴木高弘校長・東京都杉並区)と専修大学松戸高校(松本英夫校長・千葉県松戸市)の生徒たちが参加する公開模擬裁判(エクステンションセンター主催、東京弁護士会法教育センター協力)が、神田キャンパスの法廷教室で行われた。写真は、今年約80人が参加。検察官、弁護人を務めた生徒たちは、現職の弁護士から助言を受けながら、窃盗罪で逮捕された被告人は有罪か、無罪かの立証活動を行った。



松戸高

新宿駅西口で「書道展」開催

専大松戸高の「書道展」が11月8日から19日まで、JR新宿駅西口コンコースギャラリーで行われ、古典臨書、創作作品など29点が通路を彩った。



▲西口コンコースに力作が並んだ